

課題の改善・克服と長所の伸長を目指した取組について  
～自立活動の時間を要とした、個性を発揮できる児童の育成～

日置市立伊集院北小学校 教諭 田中 美穂

【推薦のポイント】

- 児童の課題の改善・克服と長所を伸ばすために、児童一人一人の実態を丁寧に把握し、環境づくりやスキル獲得のための工夫を図りながら、授業改善が図られています。
- 児童自身が自分の課題が分かり、意識して取り組むことは課題解決の一步であり、他者からの称賛は、自己有用感を高め、行動の変容につながっています。さらに、児童自身が自分のよさを客観的に把握することは、大変重要です。児童一人一人が自分のよさを実感するために、「ナイスキャラクター」として描かせ可視化するなどの取組が特に優れています。

目 次

1	はじめに	1
2	研究主題	1
3	研究主題設定の理由	1
	(1) 今日的教育課題から	
	(2) 学習指導要領から	
	(3) 児童の実態から	
4	研究の内容	2
5	研究の実際	2
	視点Ⅰ【児童の実態に合った自立活動の実施】	
	視点Ⅱ【個々の課題を改善・克服するための取組】	
6	児童の変容	8
7	成果と課題	9
8	おわりに	10
○	参考文献	10

## 1 はじめに

今年度8月、育休から復帰し、臨時的任用職員16年、初任3年目で初めて特別支援学級の担任をさせていただいている。これまでに担任する通常学級に特別支援学級在籍の児童がおり、交流学級担任として関わってきたことはあったが、特別支援学級の担任として在籍児童と向き合うのは初めてである。復帰前に資料や本を読んだり、特別支援学校教諭の免許取得のために講義を受けたりしたが、実際に経験したことがないため、分からないことや不安に思うことも多くあった。

現在、特別支援学級の児童と学校生活を共にして約4か月。奮闘する日々の中で、児童の小さな変化や成長を見つけ、喜び、楽しんでいる。これから自分自身、研修等を通して特別支援学級担任としてスキルをあげ、少しでも児童の課題の改善、長所の伸長に貢献できるよう努めていきたいと思う。

## 2 研究主題

### 課題の改善・克服と長所の伸長を目指した取組について ～自立活動の時間を要とした、個性を発揮できる児童の育成～

## 3 研究主題設定の理由

### (1) 今日の教育課題から

近年、特別支援学級在籍者数は年々増加の傾向をたどっている。知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で著しい困難を示すとされた児童は、通常学級にも多く在籍していると考えられる。そのような状況の中で今後、特別支援学級の児童への支援に特化するのではなく、学級全体に対する指導について考えていく必要がある。社会生活上の基本的な技能を身に付けるための学習、学習面または行動面で著しい困難を示すとされた児童が理解しやすいように配慮した授業改善を行うなど、通常学級担任においても同様の支援が必要となってくる。よって、特別支援学級で行う全ての支援が通常学級に在籍する全ての児童にとっても有効的な支援になると考える。

### (2) 学習指導要領から

自立活動の「内容」は、人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するために必要な要素で構成されている。それらの27項目を6つの区分に分類・整理したものが右記である。

27項目を基に児童一人一人の困り感に素早く気づき、一つ一つの課題を克服・改善していったり、長所を生かした学習課題に取り組んだりすることが自己肯定感の向上に繋がっていく。

また、心が安定し余裕が生まれるため、他者のことも受け止めやすくなり、良好な関係を築くことができると考える。

- |   |           |
|---|-----------|
| 1 | 健康の保持     |
| 2 | 心理的な安定    |
| 3 | 人間関係の形成   |
| 4 | 環境の把握     |
| 5 | 身体の動き     |
| 6 | コミュニケーション |

### (3) 児童の実態から

氏名	よさ	困難さ
A・A (1年男児)	・ 気になること、分からないことをしっかりと質問することができる。	・ 集中が続かず、興味のあることに引っぱられるため離席が多い。 ・ 身の回りの整理整頓が苦手である。

U・Y (1年女児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なルールを理解し、ルールを守りながら活動することができる。</li> <li>友達のお世話をすることが好きである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と関わることが好きで、友達のお世話をしたがる。しかし、コミュニケーションがうまくとれずに自分の思いが通じないと怒ったり、固まったりしてしまう。</li> </ul>
Y・H (1年女児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>順番を守ることができるようになってきている。</li> <li>ある程度の善悪の判断が付き、すべきことを理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いをどうにか言葉で伝えようとする姿が見られるようになってきたが、時々叫んだり、泣いたりしてしまう。</li> </ul>
U・S (2年男児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の見通しをもったり、指示を聞き返したりすることで安心して活動に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かす活動には集中して取り組むことができる。しかし、問題の数が多いときや、長文の読み取りなどの学習では、集中が続かないことがある。</li> </ul>
K・A (5年女児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>下級生に優しく、困っている子に声をかけたり、手を差し伸べたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや思いを伝えることが苦手である。</li> <li>思い通りにならないとすぐに怒ってしまう。</li> </ul>
M・K (5年男児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人懐っこい性格で誰にでも話しかけるなど、お話が大好きである。</li> <li>大勢の前でも動じずに話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面倒くさがりな面があり、丁寧に作業をすることが苦手である。</li> <li>自分の気持ちを優先させる言動が多く、下級生に強い口調で話しかけてしまうことがある。</li> </ul>

本学級は、1年生男子1名・女子2名、2年生男子1名、5年生男子1名・女子1名の計6名である。異学年の学級ではあるが、お互いに思いやりの心をもって仲良く過ごしている。教科等の学習時には、それぞれの課題に取り組むためさほど関わることはないが、自立活動など交流のある学習時には自分の気持ちを優先させ、トラブルになることもある。

教科の学習中、離席があったり、集中が続かず遊んでしまったりと、落ち着いて学習に取り組むことができていない児童も多い。

そこで、さらによい人間関係・学習に向かう姿勢などを築けるよう「自立活動」の時間を要に「課題の改善・克服、長所の伸長」を目指した教育活動を行おうと本主題を設定した。

#### 4 研究の内容

研究の視点として次の2点を設定した。

##### 視点Ⅰ【児童の実態に合った自立活動の実施】

自立活動の時間を要とし、自分の課題や長所に気付かせ、克服・伸長を促す支援の在り方

##### 視点Ⅱ【個々の課題を改善・克服するための取組】

児童が学級で落ち着いて学べる・過ごせる支援の在り方

#### 5 研究の実際

##### 視点Ⅰ【児童の実態に合った自立活動の実施】

##### (1) スキルアップ大作戦

学校生活を送るにあたって「廊下を走らない」「時間を守る」など、学校にはきまりがあることや「やっていいこと・悪いこと」の善悪の判断など、本学級の児童も一定程度理解することができる。しかし、守れていない・できていないことも多いため、児童に身に付けてほしい「スキル」の獲得を目的とした学習である。

## ア スキル獲得を目指して

教師が児童一人一人を思い浮かべ、それぞれに身に付けてほしいスキルをカードにした。児童には身に付けたいと思うカードを自分たちで選ばせ、スキルボードのポケットに入れ、目に触れやすい場所に掲示しておくことで、日常的に意識しやすいようにする。



【スキルカード】



【個々のスキルボード】

児童は普段注意されていることを思い起こしているのか、しっかりと自分に足りない(課題)と思うスキルカードを選んでおり、そのスキルを身に付けようと日々意識している様子が伝わってきた。達成感を味わわせるためにも、スキルが身に付いたと認証されるとスキルボードにミニカードを貼れるようにし、頑張った成果が自分でも実感できるようにした。また、もともと身に付いているスキル(長所)に関しては、教師や友達と一緒に確認し、スキルボードに貼ることで、更なるスキルを獲得するための意欲へと繋げた。この活動は自立活動の授業だけではなく常時行うことで、スキル向上の持続化を図った。

## イ 自分に必要なスキルを考えて

次のステップとして、自分に足りない(課題)スキルを考え、カードに表す活動を行った。まず、自分の直したいところを考えさせ、そこを改善するためにはどんな方法があるのかを探ることで自己理解を深めることに繋げた。自分に足りないところ(課題)はわりと早く思い付いたが、改善方法を生み出すことはなかなか難しく、教師と一緒に考えカードに表した。



【児童手作り】

## (2) 自分研究所

本学級の児童は、自分が学習や活動に取り組む上で課題としていることをある程度認識することはできているが、その課題をどのように解決したらよいか具体的に考えをもったり、行動したりするところには至っていない。また本学級での生活を通して、子供たちなりに友達を理解し、人間関係を築いてきている。しかし、ゲームなどの活動になると、自分の思いを優先させた言動が見られるなど、自分の気持ちをコントロールをしたり、相手のことを考えた言動に心がけたりするところには至っていない。

そこで本活動では、「心理的な安定」、「人間関係の形成」に焦点を当てて自立活動を設定することにした。自他の特性や学習及び生活上の困難さを感じる場面を振り返り、表出する問題行動を自覚したり、他者の課題に共感したりする活動を通して、課題を改善・克服したいという思いをもち、主体的に自己分析をすることができるようにする。また、自分のナイスなところや困っているところを振り返り、友達と紹介し合う活動を通して自己理解とともに他者理解を深めることで、児童同士の関係性がよりよいものとなり、更に楽しい学校生活を送ってもらうことを目的としている。

## ア 長所の伸長を目指して

自分のナイスなところをキャラクター化することで、自分を客観的に見て、自己理解を深められるようにすることをねらいとした授業を実践した。

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	主な教師の手立て
つかむ・見通す(10分) 活動する(25分) 振り返る(10分)	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習活動を確認する。</p> <p>自分のナイスなところをキャラクターで表そう。</p> <p>3 学習の流れを確認する。</p> <p>4 「自分のめあて」を確認する。</p> <p>考えたキャラクターを友達にしっかりと伝えたいな。(紹介)                      困ったときは友達に相談しよう!(キャラクター作り)</p> <p>5 自分のナイスなところを振り返る。</p> <p>自分のナイスなところはどんなところだったかな。</p> <p>6 キャラクターを作る。</p> <p>ナイスキャラクターを考えてみよう!</p> <p>ぼくは、何でも張り切ることができるナイスなところを「はりきりギリス」で表そうかな。                      私はいつもにこにこできるナイスなところを「えがオッケー」で表したいな。</p> <p>7 友達と紹介し合う。</p> <p>私のナイスなところは、いつもにこにこ笑顔で過ごせるところです。それを「えがオッケー」に表してみました。</p> <p>(聞き方) ①嬉しい言葉を返す ②あいづちをうつ                      ③質問をする ④感想を伝える</p> <p>8 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別のめあてについて振り返る。</li> <li>感想をまとめる。</li> <li>感想や友達のよかったところを発表する。</li> </ul> <p>ナイスなところをキャラクターにしたら、長く付き合えそうな気がしたよ。</p> <p>友達のナイスなところを知ることができてよかったな。</p> <p>9 次時の学習について知る。</p>	<p>主な教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画で前時の活動を振り返る時間を設定することで、活動のポイントを想起したり、前時と本時の活動の違いを確認したりすることができるようにする。</li> <li>時間と流れを提示することで、視覚的に本時の見通しがもてるようにする。</li> <li>前時の振り返りを基に立てた「自分のめあて」を確認する時間を設定することで、主にご活動のときに特に頑張るのかを意識できるようにする。<b>めあての掲示場所【要改善】</b></li> <li>前時に作った自分分析ワークシートから、自分のナイスなところを振り返らせる。さらに、日常で使っているスキルカードにも触れ、できるようになったことが自分のナイスなところになることに気付いたり、札を提示することでこんなナイスなところもあったと自覚したりできるようにする。</li> <li>自分が一番好きな自分のナイスなところを選び、キャラクター化することを伝えることで、活動の意欲を高められるようにする。</li> <li>ナイスキャラクターの名前やイラストが思い付かないときには、友達や先生に相談するなどの方法を伝え、周りからヒントをもらいながら活動できるようにする。                      (Y・H児対応): 日常生活での様々な場面の写真から、何をしているところで、その行動はよいか悪いかを考えさせ、OKシート・NOシートに区別する活動を行わせる。(シートにのり付けさせる)</li> <li>友達と紹介し合うときには、簡単に聞き方を確認し、みんなが気持ちよく紹介できるようにする。<b>また、友達のいいところを伝え合う。【改善点】</b></li> <li>作ったキャラクターを紹介し合う時間を設定することで、自分の「ナイスなところ」を再認識し、自己理解を深めたり、友達の「ナイスなところ」を知り他者理解を深めたりできるようにする。</li> <li>児童からでなかったよかった点について教師が評価し、伝えることで、児童が自覚できるようにする。</li> </ul> <p>【児童が作ったキャラクター】</p> 

児童はいくつか挙げた長所から1つを選び、キャラクター化する活動を楽しみながら行った。1・2年生も集中して取り組み、予想を越えた出来のキャラクターが完成した。授業研究にて以下の課題が挙げた。

- 1 個々のめあてを掲示する場所は、前面の黒板が効果的であるのか。
- 2 紹介の際に、友達からも紹介者の児童のナイスなところを伝えてあげるとさらに効果的ではなかったか。

1については、今後授業を行う中でいろいろ試し、効果的な掲示方法や場所を目指し改善していく。

2についてはPDCAサイクルで、翌日にもう一度紹介し合う時間を設定し、その際に発表児童の長所を伝え合う活動を取り入れた。すると、自分では自覚していなかった長所を教えてもらったり、いくつもの長所を挙げられたりすることで、自己理解や他者理解の深まりにも繋がった。何よりも友達から長所を伝えられた児童の嬉しそうな表情が印象的であった。自分はここ(そよかぜ学級)にいてもいい、受け入れられているという存在意義を感じることができるようになった。



【伝え合う様子】

#### イ 課題の改善・克服を目指して

自分の困ったところ(課題)についても同じようにキャラクター化し、自分を客観的に見て、自己理解を深められるようにすることをねらいとする。そして、助っ人キャラクターを作成する活動を設定することで、親しみをもち、困っているところ(課題)が出てきたときの対応に生かそうという意欲を高めることができるようにする。

この活動は、3学期に実践する。

### 視点Ⅱ【個々の課題を改善・克服するための取組】

#### (1) 見通しをもたせるための工夫

児童の中には、「いつ」「何を」「どのくらい」活動するのが分からないと、集中できなかつたり課題に取り組むことができなかつたりする児童がいる。そこで、主体的な学びを支え、「安心・簡単・できる」と思わせるなど一人一人にとって分かりやすい授業の実践をねらいとした有効的な取組を模索している。

#### ア 学習全体の流れの見通し

この学習でのゴールやおおまかな学習内容など単元全体の流れを把握させることで、児童自身が見通しをもって学習に取り組めるようにする。



#### イ 45分間の学習の流れ

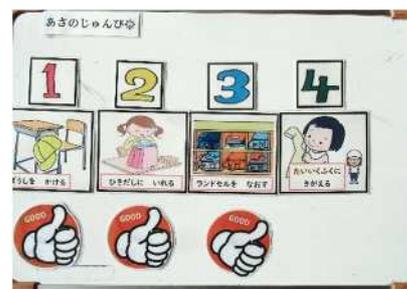
<p><b>【一斉指導】</b></p>	<p>自立活動など、学級全体で取り組む学習の時には、45分間のおおまかな流れを授業のはじめに確認し、本時の学習活動の内容と流れを把握させることで落ち着いて学習に入れるようにする。</p>	<p><b>【個別指導】</b></p>	<p>教科の学習で、個々の課題に取り組む学習の時には、個別のボードで本時の学習活動の内容と流れを把握させる。ゴールを決めて、見通しをもつことで、45分間集中して取り組むことができる。</p>
----------------------	---	----------------------	---

初めは教師が準備をしていたボードだったが、休み時間に児童自ら活動を選択し、見通しを立てる姿が見られるようになった。「この活動をしたい」「この活動ならできる」という意思表示ができるようになったことに驚いた。実際に自分で見通しを立てた時間の方が児童の意欲や集中の高まりを感じることができた。児童の成長に合わせて支援の内容を変えていく必要性を感じた出来事であった。



### ウ 朝・帰りの準備

登校後、何をすればいいか分からないのか、あるいは分かっているが何から取り組めばいいのか分からずに準備が進まないのか、困り感のある児童がいた。することをボードに示し、できた順に Good マークを貼ることで、次に何をすればよいか、また準備のゴールは何かを見通すことができ、毎朝スムーズに準備を行うことができるようになった。帰りの準備も同様にボードを見て行うことができるようになった。毎日繰り返すことで現在はボードがなくても準備を行うことができるようになった。



11月から来た転入生もなかなか準備に取りかかることができなかつたが、そのボードを活用することで、まだ時間を要するが一つ一つの作業を自分で行うことができている。

### (2) 集中できる学習環境の工夫

本学級には、周りの様子が気になり自分の学習に集中して取り組むことが難しい児童が多い。そこで衝立を有効的に活用し、児童が落ち着いて学習に取り組むことができる環境作りを行った。

#### 【一斉指導】



授業の導入や振り返りの活動のときなど、全員が一緒に学習するときには衝立をせずに学習するようにしている。周りの様子が見えることにより、安心して学習に取りかかったり、作業をしたりできることもあるため、本時のめあてや活動の内容によって学習環境に変化をつけるように努めている。

教師の指示や話、友達の発表を聞くときは、しっかりと「聞き方」を確認し、日頃から静かな環境作りにも力を入れている。

#### 【個別指導】



個別に考えをまとめたいときや国語や算数など教科の学習時には衝立を使用し、個別の空間で学習できるようにしている。周りの友達の様子を気にせずに自分の学習に集中できる環境としてはとても効果的で一人一人の力を発揮することができている。教科の学習時には、見通しボードをすぐ横に設置することで、児童自らが学習状況を把握しながら学習を進めることができ、意欲の向上にも繋がっている。

### (3) 落ち着いた環境の工夫

特別な支援を要する児童は、必要な情報を選択して取り入れたり、集中を持続させたりすることに困難さを感じることが多い。そこで、学習に取り組みやすい環境を整えることはとても重要な支援となる。一目で分かる整理・整頓の仕方など、常に教室をすっきりとさせておくことで、学習時間も休み時間も児童にとって居心地のよい教室となるよう心がけている。

<p>学習活動に集中できるように、全面の掲示はすっきりとさせ、黒板を目立たせる。</p> 	<p>学習の資料やファイルなど、一人ずつ片付けられるように個々のボックスにまとめる。</p> 
<p>棚や遊び道具を一切置かずに、広々としたスペースを作る。</p> 	<p>連絡帳や配付プリントなどは個別のファイル入れで管理する。</p> 

#### (4) 個の発達段階に応じた支援の工夫

本学級には、一日の学校生活を通して特別に支援を要する児童が在籍している。8月に出会ったときには、意思疎通を図ることができず、一方的に自分の思いを泣き叫んで訴えてきたり、座学での学習が5分もたなかつたりするような状況であった。一つ一つ「スモールステップ」での支援を行うことで、児童に負担をかけず、教師自身も焦らずに学習・生活支援を進めている。

##### ア 全ての活動に見通しをもたせる

学習時間だけでなく、朝の活動や給食、昼休みや清掃活動など、全ての活動において見通しや活動場所の確認を行うことで、「いつ」「どこで」「何を」がはっきりし、児童が行動しやすい状況を作ることができる。写真のように、「朝、体育館で、座って、話を聞く」というようなボードを毎時間準備することにより、全校朝会に参加できるようになったり、給食当番ができるようになったりと、少しずつではあるが、活動内容に広がりが出てきた。様々な活動がルーティン化してきており、現在はカードの枚数が減っても同じように行動することができている。



##### イ 言葉で伝えることができるようにするための支援

本児は、「レゴ、貸して」など限られた内容の二語文程度を発することができる。そこで、あらゆる場面で、この状況ではこの言葉を使うのだと繰り返し伝え続けている。また、返事が返ってこなくても、「今日は暑いね。お茶を飲もう。」「このひらがなとても上手。頑張ったね。」など、なるべくたくさんさんの会話(言葉)を聞かせることを心がけている。

ご褒美タイムの大すきなレゴの時間には、全てのブロックを渡さずにほしいブロックを言葉で要求する練習を取り入れた。

本児：「(色), (いくつ), ください。」  
 教師：「はい, どうぞ。」  
 本児：「ありがとう。」

簡単な会話ではあるが、言葉で伝えられることの利便性を感じ、他の場面でも使おうとする意欲へ繋がることを期待している。



ウ 個別の指導計画を基にした学習指導の工夫

(ア) 国語科

目標【ひらがな・カタカナを読んだり書いたりできるようになる】

あいうえおをなぞって練習



いろいろな物のカードで練習



ノートに単語を書く



あいうえおカードでひらがなを読めるようになったら、いろいろな物のカードで名前(単語)を読んでみる。読めるようになってきたら、カードを見ながら単語を書く。

スモールステップでの取組でひらがなを覚えつつある。日によって課題に対する意欲や集中時間は違うが、基本的に45分間席についての学習ができるようになってきている。また、手を添えなくても自分でひらがなを書いたり、一音ずつの拾い読みではあるが音読をしたりと学習の成果が表れつつある。

教科書を音読



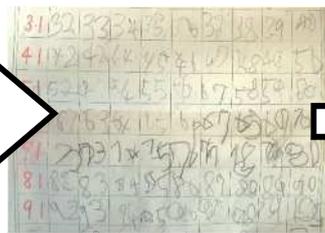
(イ) 算数科

目標【100までの数を数え、数の大小がわかるようになる】

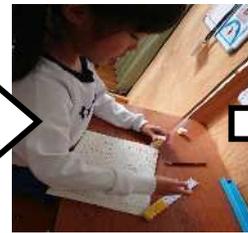
数字カードで学習



100までの数を書く



ブロックでたし算



ひき算

数字カードの学習を好み、1～100までの数を読んで書くことまでできるようになった。また、数の大小を理解し、10までの数のたし算は絵を見て解くことができた。さらなるステップアップを図り、数式を見て、ブロックを使って考える活動を促すと、すんなりと理解し、間違うことなく正確に解くことができるようになった。

6 児童の変容

氏名	個性の伸長、課題の改善・克服
A・A (1年男児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の準備や個別学習の見通しボードを使用することにより、離席が格段に減り、学習内容の見通しがもてることで自ら学習目標を立て学習に向かうことができるようになった。</li> <li>友達と伝え合う時間には、いいところを見つけて発表するなど、素直に感想を伝えようとする姿が見られるようになってきた。</li> </ul>
U・Y (1年女児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>衝立で個別の空間を作ったり、スキルカードで自ら「席を立たない」カードを作成しスキル獲得のために意識したりすることで、自分の学習に集中し、離席がほとんどなくなった。</li> <li>自立活動「自分研究所」の学習で、友達に優しくできる自分をしっかりと</li> </ul>

	認識し、その後も周りの友達に親切にしようとする姿が多く見られるようになった。
Y・H (1年女児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての活動において、見通しボードを活用することにより、45分間学習に取り組むことができるようになってきた。</li> <li>分かる言葉や指示語を使った指差しなどで、自分の思いを泣かずに伝えることができるようになってきた。</li> <li>教師の指示や話を聞いて理解し、切り替えも早くなり、すぐに行動に移すことができるようになってきた。</li> </ul>
U・S (2年男児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題の数が多いときや、長文の読み取りなどの学習では、集中が続かないことが多々あったが、見通しボードを活用することで、ゴールが分かり、集中できる時間が長くなってきた。</li> <li>自分に足りないスキルを獲得するために、学校生活の中で意識し、確実にスキルを積み上げることができた。</li> </ul>
K・A (5年女児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや思いを伝えることが苦手であったが、和やかな雰囲気のおかげで学級では積極的に挙手をして発表するなど、1・2年生の手本となり頑張った。交流学級でも自分で作ったプレゼンを堂々と発表し、交流学級の担任にも褒められ、次への意欲も高まっていた。</li> <li>思い通りにならないとすぐに怒ってしまう課題を自分で把握しており、怒りなくなったら「5秒我慢する」とスキルカードに表すなど、改善方法を見つけ意識して取り組む姿が見られた。</li> </ul>
M・K (5年男児)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人懐っこい性格で誰にでも話しかけるなど、お話が大好きである長所を生かし、友達の発表に対していつでも気持ちのよい返しができるようになってきた。</li> <li>大勢の前でも動じずに話すことができる長所を生かし、音楽発表会の劇では重要な役割を堂々と演じ切ることができた。</li> </ul>

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- 児童が過ごしやすい環境作りに努めることで、実際に居心地のよい場所になってきているように感じる。安心して過ごせる場所であることにより、児童の発言が月を追うごとに増えてきた。
- 見通しボードを使用することで、児童自身が学習に集中して向かうことができ、離席がなくなるなどの意欲の向上も図れた。
- 衝立を有効的に使用することで、児童は周りに気を取られず、自分の課題に集中して取り組むことができるようになった。
- 自立活動での「スキルアップ大作戦」や「自分研究所」の学習では、自分について振り返る時間を多く設定することで、自己理解を深め、よりよい自分になるための取組を考え、見つけることができた。

### (2) 課題

- 本学級の児童が6人揃っての教科の学習時に、学ぶ環境が整っていても個別指導でばたばたしてしまう。ワークシートやずらしなどを有効的に活用し、児童にとって学び多き45分間にできるよう努めたい。
- 見通しボードや様々なカードで活動の手助けを行っているが、児童ができるようになってきたら、その支援を減らしていけるよう調整していく必要がある。
- 自分でできるか、支援が必要かの見極めが十分ではなく、改善していかなければならない。

## 8 おわりに

9月にそよかぜ学級の児童と出会い、4か月が過ぎた。この4か月の間にも一人一人の児童の成長には大変驚かされている。個別の指導計画の項目をすでに達成している児童もいる。不慣れな担任に一生懸命ついてきてくれる児童に大変感謝している。一緒に活動をすればするほど、「こういうときはどのように対応すればよいのか」「自分の働きかけは正しいのか」と疑問があふれてくる。3学期、児童の更なる成長に寄り添えるよう、研修会等に進んで参加し、特別支援学級担任としての資質を少しでも高めていきたいと思う。今年度、特別支援学級の担任をさせていただき、今後の通常学級での経営でもためになることをたくさん学んでいるし、特別支援学級ならではの魅力にも気付きつつある。様々な経験を自分の財産とできるよう、自分自身楽しみながらかわいい子供たちと過ごしていきたいと思っている。

### ○ 参考文献

- ・ 学習指導要領解説自立活動編 (文部科学省)
- ・ 教職員のための研修の手引き (鹿児島県教育委員会)
- ・ 特別支援学級経営ハンドブック (鹿児島県総合教育センター)